

(エ) 典型性 アジサシ類(繁殖状況調査)

平成 19 年度(既存資料)及び本年度調査の結果で、確認されたアジサシ類を表-6. 19. 2. 1. 29に、繁殖行動についてまとめたものを図-6. 19. 2. 1. 7に、確認された採餌や探餌の位置を図-6. 19. 2. 1. 8にそれぞれ示しました。なお、他調査時(「6. 17 陸域動物」や生態系上位性調査等)に確認した結果も含めました。

調査では、ハジロクロハラアジサシ、クロハラアジサシ、オオアジサシ、アジサシ、ベニアジサシ、エリグロアジサシ、マミジロアジサシ、コアジサシ、クロアジサシの 9 種の生息が確認され、ベニアジサシ、エリグロアジサシ、コアジサシの 3 種で繁殖行動が確認されました。平成 19 年度調査では、エリグロアジサシの繁殖行動は長島、御向島、辺野古崎周辺、辺野古沿岸の岩礁等で抱卵や交尾、求愛給餌が、ベニアジサシの繁殖行動は平島や御向島で交尾や求愛給餌が、コアジサシの繁殖行動は瀬嵩の海岸で交尾や求愛給餌がそれぞれ確認されました。しかし、7 月 13 日に沖縄島を直撃した台風 4 号の影響により、繁殖行動は 7 月下旬以降確認されず、最終的に繁殖を成功させた個体はありませんでした。平成 20 年度調査では、エリグロアジサシで交尾や抱卵といった繁殖行動が長島、平島、辺野古崎～豊原の地先等で確認されました。

採餌や探餌は、主に安部崎から前原にかけてのリーフ内で行われていました。

表-6. 19. 2. 1. 29 確認されたアジサシ類

種名	確認年度 ^{注)1. 注)2. 注)3.}	
	平成 19 年度	平成 20 年度
ハジロクロハラアジサシ	●	—
クロハラアジサシ	—	●
オオアジサシ	—	●
アジサシ	—	●
ベニアジサシ	○	●
エリグロアジサシ	○	○
マミジロアジサシ	—	●
コアジサシ	○	●
クロアジサシ	●	—
9 種	5 種	7 種

注)1. 平成 19 年度は既存資料を用いました。

2. 他調査時のデータを含みます。

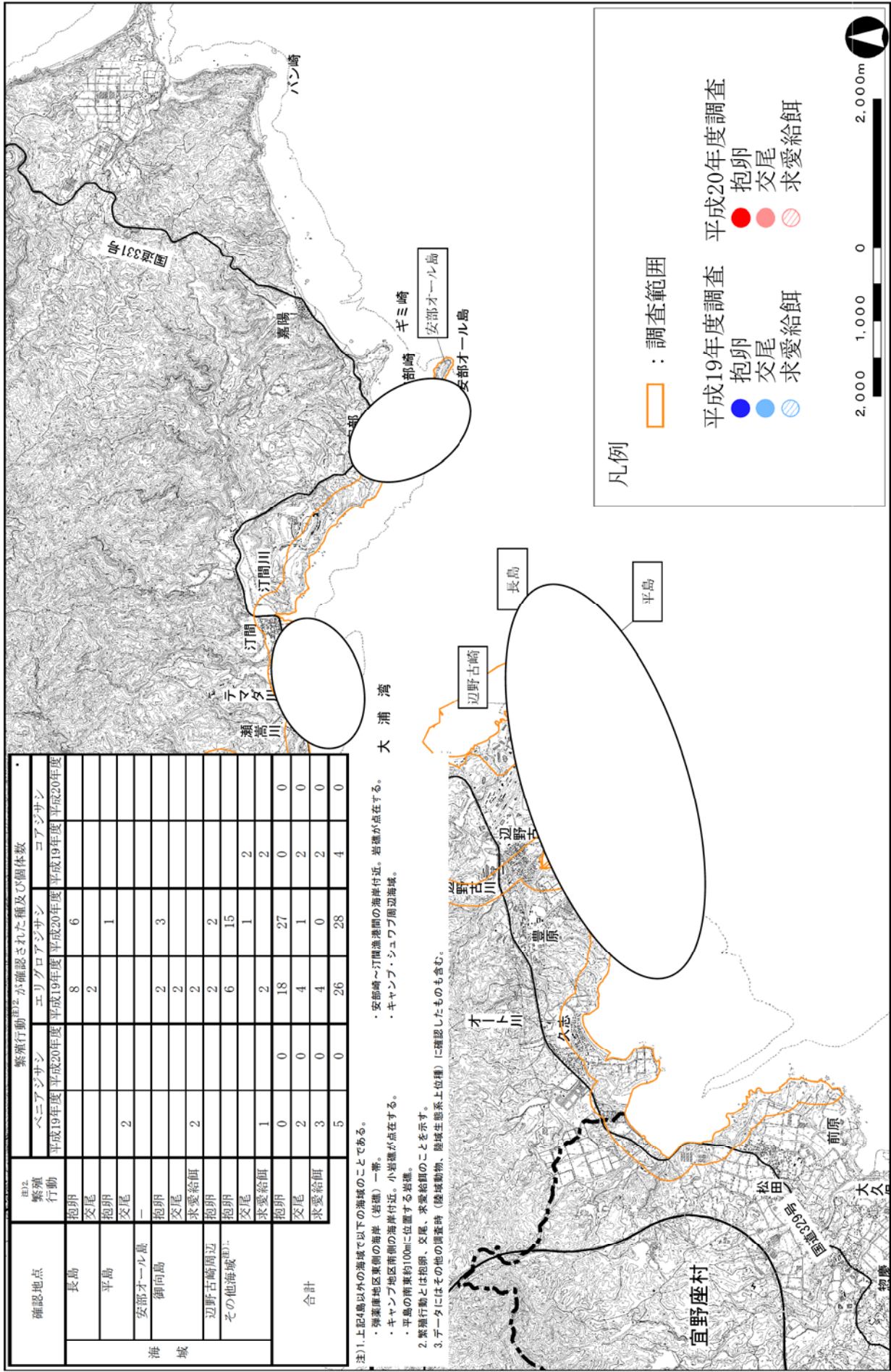
3. 凡例は以下のとおり。

○：繁殖行動(営巣、抱卵、卵、交尾、求愛給餌)を確認。

●：生息を確認

—：確認なし

資料：「シュワブ(H18)環境現況調査(その4)報告書」平成 20 年 10 月、沖縄防衛局



確認地点	繁殖行動 ^{注2} が確認された種及び個体数			
	ベニアジサシ 平成19年度	ベニアジサシ 平成20年度	エログロアジサシ 平成19年度	エログロアジサシ 平成20年度
長島	抱卵	8	6	
	交尾	2	1	
平島	抱卵			
	交尾	2		
安部オール島	抱卵	2	3	
	交尾	2		
御向島	求愛給餌	2	2	
	抱卵	6	15	
辺野古崎周辺 ^{注3}	抱卵	1	2	
	交尾	2		
その他海域 ^{注4}	求愛給餌	0	18	27
	抱卵	2	4	1
合計	交尾	3	4	0
	求愛給餌	5	0	28

注1) 上記4島以外の海域で以下の海域のことである。
 ・ 弾薬庫地区東側の海岸(岩礁)一部。
 ・ キャンプ地区南側の海岸付近。小岩礁が点在する。
 ・ 平島の南東約100mに位置する岩礁。
 注2) 繁殖行動とは抱卵、交尾、求愛給餌(陸域動物、陸域生態系上位種)に確認したものを指す。
 注3) データにはその他の調査時(陸域動物、陸域生態系上位種)に確認したものも含む。

注) 重要な種の保護の観点から、営業確認地点は表示していません。
 資料: 「シユワブ(H18)環境現況調査(その4)報告書」平成20年10月、沖縄防衛局

図-6.19.2.1.7 アジサシ類繁殖行動確認位置

(オ) 典型性 サギ類(繁殖状況調査)

平成 20 年 4 月にオー川河口付近でサギ類のコロニーを確認したことから、このコロニーにおけるサギ類の繁殖状況を確認するために、定期的に現地調査を実施しました。

繁殖状況を表-6.19.2.1.30に、詳細なコロニー位置を図-6.19.2.1.9に示しました。コロニーはオー川河口付近の右岸側イジュ-タブノキ林及びリュウキユウマツ林にあり、営巣していたのはすべてゴイサギでした。コロニーを確認した4月中旬には、巣内の雛1個体を確認し、4月末には巣内の雛5個体を確認しました。5月中旬には巣内の雛2個体を確認し、5月末には巣内の雛1個体と、巣立ち後の幼鳥3個体を確認しました。5月30日の調査で巣数が、5月13日調査の11から6に減少しました。これは、この期間内に巣立ちを行った巣があるためと考えられました。この後、夏季調査時に営巣は確認されず、既に巣立って繁殖が完了していたと推定されました。

サギ類のコロニー周辺の植生図を図-6.19.2.1.9に併せて示しました。コロニーは高木層の発達した樹林環境内につくられていました。周囲も広く樹林環境が分布していますが、北側を国道が通過しており、更にその北側及び北東側の地域は集落等の市街地環境となっていました。

表-6.19.2.1.30 オー川河口付近でのサギ類コロニーの繁殖状況

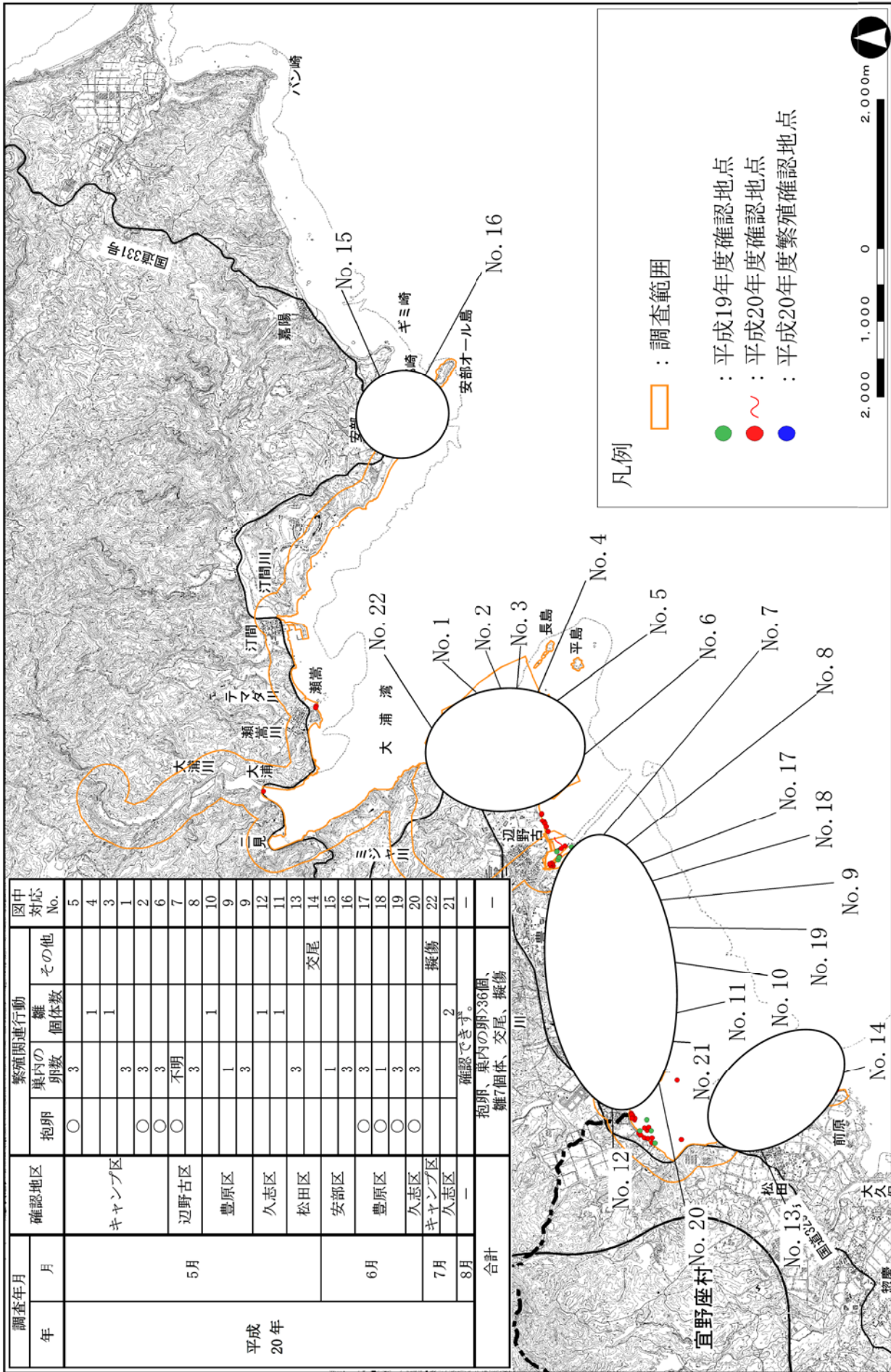
調査年月日		確認地区	巣数	幼鳥・雛 ^{注)} 個体数	成鳥 (親鳥) 個体数	他のサギ類 個体数
年	月					
平成 20 年	4月	オー川 河口 付近	4	0	11	アマサギ1
			4	雛1	14	—
			11	雛5	15	ダイサギ2、チュウサギ1、 コサギ1
	5月		11	雛2	16	ダイサギ1、チュウサギ1、 アマサギ1
			6	幼鳥3・雛1	13	—
	6月		—	確認できず。		
合計			36	幼鳥3・雛9	69	ダイサギ3、チュウサギ2、 コサギ1、アマサギ2

注) 巣立ち前で巣内にいる個体を雛、巣立ち後、巣周辺にいる個体を幼鳥と区分しました。

(カ) 典型性 シロチドリ(繁殖状況調査)

平成 20 年 5 月の「6.17 陸域動物」鳥類調査時に、キャンプ地区や豊原区、久志区等の海岸でシロチドリの繁殖を確認したことから、その後の海岸での調査時に同種の繁殖状況に留意して調査を行いました。また、調査範囲の全海岸でシロチドリの繁殖状況の確認を行いました。

現地調査において確認したシロチドリの繁殖状況及びその確認位置を図-6.19.2.1.10に示しました。図中の平成 19 年度(既存資料)のデータは鳥類調査のもので、シロチドリの繁殖地は、安部区で 2 箇所、キャンプ地区で 7 箇所、辺野古区で 2 箇所、豊原区で 6 箇所、久志区で 4 箇所、松田区で 2 箇所の合計 23 箇所を確認しました。繁殖を確認したのは、主にキャンプ地区～調査範囲南側の海岸でした。繁殖関連行動等としては、交尾、擬傷、抱卵、巢内の卵、巣立ち後の雛を確認しました。繁殖の進捗状況は場所により差が見られました。キャンプ地区の繁殖地では、5 月の上旬に雛が巣立っているが、久志区では 7 月に雛が確認されました。



資料：「シユワブ(H18)環境現況調査(その4)報告書」平成20年10月、沖縄防衛局

図-6.19.2.1.10 シロチドリ繁殖状況及びその確認位置

注) 重要な種の保護の保護の観点から、営巣確認地点は表示していません。

(キ) 典型性 オカヤドカリ類・オカガニ類(繁殖状況調査)

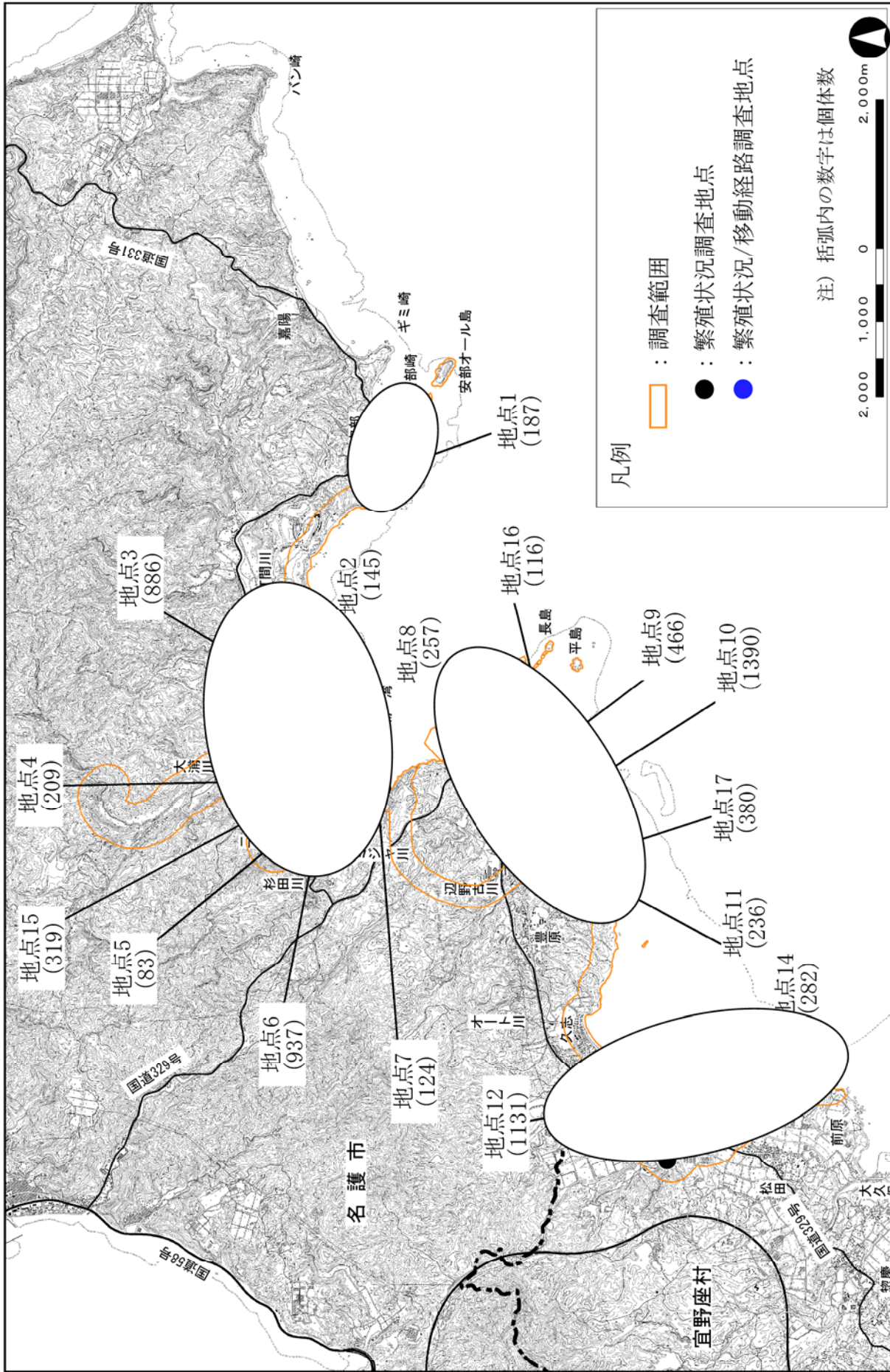
オカヤドカリ類、オカガニ類の繁殖状況の確認を目的に、平成20年6月～9月の期間で、各満月時(6月は満月及び新月時に行った)に計5回の現地調査を実施しました。確認された繁殖状況の例を図-6.19.2.1.11に、調査地点と繁殖が確認された総個体数を図-6.19.2.1.12に、平成20年度調査における地点別月別繁殖状況を表-6.19.2.1.31に、それぞれ示しました。

繁殖状況調査において、生息が確認されたオカヤドカリ類・オカガニ類は、オカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、コムラサキオカヤドカリ、ヤシガニ、ミナミオカガニ、オカガニの7種で、これら全ての繁殖を確認しました。また、種の識別に至らなかったオカヤドカリ類についても、繁殖を確認しました。繁殖は主に砂浜や岩礁部において行われました。

繁殖行動は、17地点全てで確認されました。時期は6月から9月まで確認されましたが、7～8月が繁殖期のピークであると考えられました。



図-6.19.2.1.11 オカヤドカリ類・オカガニ類繁殖状況の一例



注) 重要な種の保護の保護の観点から、管巢確認地点は表示していません。

図-6.19.2.1.12 オカヤドカリ類・オカガ二類繁殖確認状況(平成20年度調査)